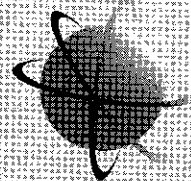


JGGA NEWS



2010年(平成22年)3月 24号

CONTENTS

- トピックス
後発医薬品の財政効果は1100億円少ない 1
 - リレー随想(中道 淳一) 3
 - お知らせ
JGAホームページからの各種情報提供・検索システムの
開設について 5
 - 活動案内 9
-



後発医薬品の財政効果は1100億円少ない

後発医薬品使用促進による薬剤費削減効果は、想定よりも1100億円少ない。その半分程度は製薬企業（先発医薬品企業）に責任を負ってもらおうと考え、長期収載品の2.2%追加引き下げで600億円を削った。長妻昭厚生労働相は2月中旬の衆院予算委員会で、次期薬価改定で長期収載品の追加引き下げを行う理由をこう説明した。

厚労省は、2012年度までに後発医薬品の数量シェアを30%以上に拡大する目標を達成するため、毎年各種施策を打ち出してきた。08年度療養担当規則改定では処方せん様式の再変更などの施策を実施。改定の谷間にあたる09年度は、保険者による「患者の後発医薬品希望の意思表示を容易にするカードの配布」や「先発医薬品から後発医薬品に切り替えた場合の窓口負担軽減効果の通知」などの施策を講じた。しかし、先発医薬品から後発医薬品への切り替えは思うようには進んでいない。

厚労省は、後発医薬品使用が毎年順調なペースで進めば、09年度に数量シェアが23%程度に到達すると想定していたが、実際には20.2%にとどまっており、3ポイント程度の開きがある。そうした状況から試算すると、後発医薬品使用促進策による薬剤費削減効果は、想定よりも1100億円少ないという。この数字を聞いて「こんなに進んでいないのか」と後発医薬品使用の遅れを改めて実感した人も少なくないだろう。

後発医薬品使用の遅れの責任をなぜ先発医薬品企業が負うのか。厚労省は、「製薬業界は、新薬創出・適応外薬解消等促進加算の導入をめぐる議論で、後発医薬品使用が計画通り進んでいなければ既収載品を下げると約束したので、その責任を果たしてもらおうということ」と説明。未達分の全額ではなく半分程度とした理由については、「すべての責任を負わせるのはどうかなどといろいろ議論した結果、半分程度になった」としている。ただ残りの半分程度は「特に対応していない」ため、後発医薬品使用の遅れの責任は先発医薬品企業だけが

負った格好だ。

製薬業界自らが新薬創出加算導入の議論で約束した以上、一定程度の責任を負うのはやむを得ない。ただ後発医薬品使用の遅れは、医療機関や薬局、先発医薬品企業、後発医薬品企業、行政などそれぞれに原因があるとみられ、なぜ先発医薬品企業だけが責任を負うのかといった疑問は残る。未達分を「精算」するのであれば、後発医薬品使用の遅れを招いた関係者全体が相応の責任を取る形のほうがふさわしいのではないか。

2010年度診療報酬改定では、新たな後発医薬品使用促進策を打ち出すことが決まっている。薬局での後発医薬品調剤をさらに進めるため、「後発医薬品調剤体制加算」の算定要件を処方せんベースから数量ベースに変更し、20%以上(処方せん受け付け1回につき6点)、25%以上(13点)、30%以上(17点)の3段階で評価する形に改めた。

また医療機関の後発医薬品使用の新たなインセンティブとして、後発医薬品の採用品目数の割合が20%以上などの要件を満たす場合に、薬剤料を出来高払いで算定している全入院患者の入院基本料に入院初日に上乘せする「後発医薬品使用体制加算」(30点)も新設した。

これら施策によって後発医薬品使用は前進するとみられるが、仮に進まない場合に再び未達分の精算を行うのかどうか。精算を行う場合に、先発医薬品企業だけが責任を負う形でよいのかどうか。後発医薬品使用促進を進めるに当たっては、そうした点もしっかりと議論しておくことが必要ではないか。



インドとの出会い — 自我の原体験

サンド株式会社

中道淳一

ムツとする暑さ、思わず鼻を覆いたくなる埃っぽさ、ネトツとした香辛料に混じった何かの腐敗臭、まっすぐ歩くことができないほどの人の多さ、様々な色水をかけられた牛がノソノソ、道端で横たわっている人、しつこくまといつく物乞いとも物売りともつかない人々に囲まれて立ち往生。30年ほど前にインド・カルカッタの路上で初めてインドの現実に出会った際の印象です。

19歳で初めての海外、前日にカルカッタに到着はしていたものの夜の到着であったこと、父から最初の一泊は良いホテルに泊まれ、と言われてお金をもらっていたので当地一番のホテルに一泊だけして、「さて、どこに住もうか？」と通りを歩き出したところでした。

1年みっちり現地語を勉強したつもりでしたが、みすばらしい物売りに話しかけられ、得意になってヒンディー語で受け答えを始めた途端に「お前の言葉は良くわからないので、日本語で話してくれ」と日本語で言われた時のショックは忘れられません。結局、にぎやかな通りにあるYMCAの一泊800円ぐらいの部屋に居を構え、雨漏りシミがいくつもある天井にピタッとくっついているヤモリとの同居生活が始まりました。シャワーはなく、バケツに水を汲んできてそれを浴びる、もちろん冷房などはなく、水をコンクリートの床にぶちまけて気化熱で少しでも涼しさを、という仕組み。ただ、英国統治時代からの習慣か、朝食にはイギリス式の薄いカリカリに焼いたトースト、ケチャップで煮たようなベークドビーンズ、温かいうちは膨らんでいるが冷えてくるとしぼんでしまうオムレツ、ミルク紅茶がポットで供され、白い(薄汚れてはいましたが)手袋をしたボーイに給仕をされながら他の滞在客と一緒に食べる。そこで、「今日は何をするのか？」という話し合いが始まり、気のあったグループでその日の行動を共にする、という日課でした。大学の先輩を訪ねたり、教授の留学時代の友人たちを訪ねたり、と単独行動が多かったのですが、ニュージーランドからインドを訪問していた物静かな仏教徒という男性と話が合い、西にブッダガヤ方面に移動を一緒にすることにしました。二等列車での移動は刺激的で、

連れ合いがいないと自分の荷物も守ることはできない状態でした。座席上の荷物棚に場所を確保し、そこで横になっていると(天井までの高さがなく横になるしかない)、足元が動く。びっくりして恐る恐るそちらを見ると袋に叩き込まれたヤギと鶏がお互いにバタバタしながら暴れている。そのうちに鶏が袋を破り(最初から破れているようなものでした)、逃げ出し、車内は大騒ぎに。しかし、ギューギュー詰めで走っている列車なので誰も有効な手は打てない。持ち主らしき男性は叫んでいるが、どうしようもない。その内、誰かが非常警報を押したのか、何か事故・故障なのかわからないまますごいブザーが鳴り、何にもない荒野で列車が停止。ちょうど列車が停止したところで、用を足していた男性がいたが、さすがにまずいと思ったのか、かに歩きで木陰まで移動、それを見ていた車内の皆が大笑いをし、笑顔が車内に戻った。駅に停車すると甘いチャイ売りが使い捨ての素焼きの茶碗にチャイを器用に注いでくれる、床は黒いと思って見ていると人が歩くとそこが「白く」なる、あっ、ハエだ。甘い甘いシロップ漬けのお菓子をホームの露店で買うと手が砂糖蜜でべたべたになる、歯が溶けそうな甘さ。

各地に普通に生活に密着していらっしゃる聖人たちとの出会い、仏教をインドに返還する運動に熱意を持って推進していらっしゃる日本の方々、交通の便がない聖地を訪ねる先々で一宿一飯を供してくださったの方々、ヒンドウの聖地バナーラスでお世話になったヒンドウ大学の先生方、こうした縁に支えられ南アジア文化の勉強を継続することができました。そして日本企業駐在員としてインドに赴任し、その経験から経営学を勉強する必要にノックアウトされ経営大学院に進学、製薬業界に就職。スピード感のあるビジネスに魅せられ、ジェネリック医薬品業界に転進。

インドとの出会いが、「今」のスタート地点であった、という振り返りをご紹介しました。当時は、インドの過去、文化的・歴史的な遺産に興味を持ちましたが、現在のインドの「将来」への注目度合いを考えると隔世の感があります。

次号は、昭和薬品化工(株)の野村社長にお願いします。



お知らせ

☆JGAホームページからの各種情報提供・検索システムの開設について

当該システムは、患者様の負担軽減と医療費の削減による持続性のある医療保険制度とするために、政府が掲げた「経済財政改革の基本方針」(平成19年6月・閣議決定、ジェネリック医薬品の数量ベースでのシェアを平成24年度までに30%以上にする)の目標を達成するための協会活動の一環(さらなる取り組み)として、平成21年度特別事業として企画検討を進めてきた事業です。

具体的には、一般向けに「かんたん差額計算」システムの導入、医療関係者向けには①ジェネリック医薬品情報提供システム②ジェネリック医薬品品質等関連文献検索システムを構築することとしております。これら三つのシステムは4月1日開設を目指して最終調整をしているところです。

それぞれのシステムの内容につきましては、以下のとおりとなっております。

<かんたん差額計算>

こちらのシステムは、一般向けコンテンツとして新たに構築しているシステムとなっております。当協会事務局に寄せられる一般の方からのお問い合わせの約半数が、ジェネリック医薬品があるかどうか、また、その差額はどのくらいなのかといった問い合わせとなっております。そこで、webを利用してかんたんに差額等の情報を提供するシステムを構築することといたしました。

ポイントとしては、現在処方されているお薬にジェネリック医薬品があるかどうか、また、あった場合に、それらのお薬をジェネリック医薬品に切り替えたときの差額がどのくらいになるのかをお知らせするシステムです。

当システムの利用にあたっては、個人情報の入力の必要が無く、無料となっておりますので、一般の方に広くご活用頂けたらと考えております。

<ジェネリック医薬品情報提供システム>

こちらのシステムは、医療関係者向けコンテンツとして新たに構築している

システムとなっております。

当協会は、アクションプログラムの課題である品質、情報提供体制、安定供給体制の確保に真摯に取り組んでまいりましたが、残念ながらジェネリック企業の情報提供体制に対する不満の声が後を絶たない状況にあります。

ジェネリック医薬品企業は、その特性(薬価が安いいため製造原価率が高く、販管費が少ない)から多くのMRを抱えることが出来ません。そのため、先発企業と同じ規模の情報提供体制を敷くことが難しい状況です。一方では、最近医療関係者の情報収集手段は変化しており、現在ではweb上での情報収集の割合が大変増えてきております。また、先発企業でもwebを利用したプロモーションの割合を増やしている企業が出てきております。

こういった状況の中、当協会はジェネリック医薬品企業の新しい情報提供手段としてITを活用した情報提供システムを開発し、当協会会員会社と医療機関webで結び、必要な情報を迅速に提供する体制の整備を図ることといたしました。

情報提供システムは、医療関係者の方が医療機関、薬局においてジェネリック医薬品の採用、ジェネリック医薬品の処方、患者説明等を行う際の医療上の必要な情報を提供するものであり、①ジェネリック医薬品検索、②資料請求システム、③問い合わせ機能、④会員企業ホームページへのリンク機能及び⑤患者負担差額計算機能を用意しております。

それぞれの機能は、

- ①「ジェネリック医薬品検索」は一般名、先発医薬品名、ジェネリック医薬品名のいずれかで検索し、対応するジェネリック医薬品を表示する。また検索は上記に剤型、企業名を特定した複合検索も用意している。表示される項目には「効能の差」も含まれており、効能の差の有る無しが一目でわかるようになっている。クリックすると効能・用法用量の違いがポップアップ表示される。また、この一覧の企業名から各社ホームページの製品情報提供ページにジャンプして該当資料を取得することも可能となっている。
- ②「資料請求システム」は①の検索画面から資料請求したい製品を選択して複数のGE企業に同時に資料請求することが可能となっている。請求する資料は添付文書、インタビューフォーム、生物学的同等性試験、溶出試験、

安定性試験等が選択できる。請求情報は即座に会員企業に送信され、各企業の情報提供担当者が該当資料を協会サーバー上にアップロードし、医療関係者は協会サーバーから資料をダウンロードすることも出来、従来MRが持参していた方式に比べ、はるかに迅速な情報提供が可能となる。

- ③「問い合わせ」ではGE企業の一覧から問い合わせたい企業名をクリックすると各社の「問い合わせ」ページにジャンプし、各種の問い合わせをすることが可能となっている。
- ④会員ホームページへのリンク機能は製品検索から各社の製品情報ページにアクセス出来るようになっており、即座に掲載資料を閲覧したい場合に便利な機能である。
- ⑤「製品選択型負担差額計算」は①のジェネリック医薬品検索の要領で検索した製品に対して複数の組み合わせで先発医薬品、GE医薬品それぞれの薬剤費、患者負担額(1割・3割)、ジェネリック医薬品に変更した場合の患者負担差額(1割・3割)を即座に計算して表示し印刷が可能となっている。

<ジェネリック医薬品品質等関連文献システム>

こちらのシステムも医療関係者向けコンテンツとして構築しております。

近年、ジェネリック医薬品に関する文献が大変多く発表されており、中には科学的実証性に乏しいものもあり、その検証を行うため、国立医薬品食品衛生研究所に「ジェネリック医薬品品質情報検討会」が設置され評価を行っております。

当システムでは、国立医薬品食品衛生研究所の検討会において評価を行った文献、学会報告等が検索できる他、対象薬剤にどのような文献が出ているのかを即座にフリーキーワードで検索できるようになっております。

当協会会員会社のアクションプログラムへの取り組み状況は残念ながら医療関係者にはその内容が十分に伝わっておりません。当協会としましては、各種講演会、イベント、メディアを通じた告知等、会員会社の取り組みにつきましてより一層の啓発をして参ります。

併せて、当該システムが十二分に活用され、ジェネリック医薬品に対する不安を払拭していただけることを希望しております。

是非このシステムがジェネリック医薬品のシェア拡大の一助となりますよう、会員会社の体制整備並びに運用に対するご協力をお願いいたします。



<日誌>

2月 3日	薬制委員会全体会議	東京八重洲ホール会議室
"	安全性委員会	"
2月 4日	くすり相談委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室
"	ジェネリック医薬品情報提供システム 並びにくすり相談研修会	東京八重洲ホール会議室
2月 9日	総務委員会総務部会	日本ジェネリック製薬協会会議室
2月18日	常任理事会	新大阪ワシントンホテルプラザ
"	理事会	東京八重洲ホール会議室
2月23日	薬事関連委員連絡会	日本ジェネリック製薬協会会議室
2月26日	薬価委員会	東京薬事協会会議室

<今月の予定>

3月 2日	国際委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室
3月 5日	ジェネリック医薬品情報提供システム会議	ベルサール八重洲会議室
3月 9日	総務委員会総務部会	日本ジェネリック製薬協会会議室
3月10日	薬制委員会通知検討部会	"
3月16日	環境委員会	"
3月17日	くすり相談委員会	"
3月18日	常任理事会	東京八重洲ホール会議室
"	理事会	"
"	臨時総会	"
"	品質委員会	東京駅八重洲ビジネスセンター会議室
3月25日	薬制委員会全体会議	東京八重洲ホール会議室
3月26日	薬価委員会	東京薬事協会会議室

----- / 編 / 集 / 後 / 記 / -----

一年前の同じ頃、今回と同様に編集後記に私の駄文を掲載頂く機会があり、一家全員がインフルエンザの猛威にさらされ、全員高熱でノックダウンし、医療機関にお世話になったことをご紹介しました。その際に頂いた処方せんは、残念ながら後発医薬品変更不可の署名がなされており(相談や意思表示をしなかったことでもあります)、調剤薬局でも後発医薬品についての案内はなく、先発のお薬をいただきました。一部事例ですが当時の現状の一端を垣間見た気がしたことをお話ししました。

そして今年の年末ですが、またもや我が家の子供たちは世間の情勢に洩れず、インフルエンザ(新型!!)に罹ってしまいました。しかしながら、すぐに薬を頂いたこともあり、すぐに熱は下がり、妻や私に感染することはありませんでした。それでも子供たちは快復後もなにかと体調を崩すことが続き、私もついには体調を崩し、熱が出た為、抗菌剤等を処方してもらいました。

昨年と同じ話題(しかも時季はずれの)を繰り返したのは、手抜きをしたくてという怠け心ではなく、実は今年はこちらから相談しなくても薬局でジェネリック医薬品の説明を受け、ジェネリック医薬品を調剤してもらったという経験をしたからです。また次の時にはファモチジン製剤についてDrにジェネリック医薬品の希望をしたところ、その医院(門前薬局)で登録(採用)している指定の銘柄(某社の)で処方せんを発行してくれた、という経験をしました。

患者さんへのアンケート調査によるデータや、様々なジェネリック医薬品啓発の為の一般患者様向けイベントなどに参加して感じるところからも、「先生に相談してもジェネリックに変えてくれない」という声が未だに多く、業界としても一番の課題であると思っていたところ、身近にジェネリック医薬品使用促進の進展を感じ取ることができたので非常に嬉しかったことを思い出します。

また、JGAとしても「ジェネリック医薬品使用促進フォーラム」を今年度事業として大阪、東京、福岡(3月7日)で開催し、業界としてのジェネリック医薬品啓発活動に積極的に取り組んでいるところですが、こちらに参加してみて印象的だったのは日本薬剤師会の常務理事のご講演で、今まで以上に薬剤師がその責務としてこのジェネリック医薬品使用促進に取り組むのだという、強い姿勢と意思を参加の会員の薬剤師方々に示されていたことでした。

今年度は診療報酬改定により、さらなるジェネリック医薬品使用促進がなされることとなりますが、アクションプログラムに対する取り組みの確実な実施という大きな責任も果たせるよう、少しでも貢献したいと考えます。(N.O)

■ 編 集

日本ジェネリック製薬協会
総務委員会広報部会

■ 発 行

日本ジェネリック製薬協会
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-3-4
日本橋本町ビル7F
TEL:03-3279-1890 FAX:03-3241-2978
URL:www.jga.gr.jp